

修学旅行新聞

発行所 財団法人 全国修学旅行研究協会
発行人 前田 寛
東京都千代田区西神田
千代田1-7-7 (編集室)
電話 2426・2932 (東京)
2426 (東京)
電報 6-36337

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育に極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究し、常にその改善に努力し、ついで教育効果の充実に努める事は必要であり教育界に課せられた責務でもある。
(財団法人 全国修学旅行研究協会の趣意書から)

昭和64年度予算 概算要求額をきまる

文部省

修学旅行等の補助金は 今年の実態を考慮し増額

今年の実態を考慮し増額

文部省は、八月三十一日、相当の隔りがあるが、この昭和六十四年度予算の概算要求額について文部省教育助成局長(総額四兆五千八百六十九億三千三百円)をまとめ、は「予算の枠は相変わらず厳大蔵省に提出した。この中に、今年の実態を十分は要保護・要保護の家庭並に検討した上でこの金額を決定し、へき地の児童生徒を支へるに、今年に比べて各項目と給対象とする修学旅行費等の増額した上で評価してはし補助金も計上されている。」と語っている。

修学旅行の補助金については、本協会が、関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会と共同して文部省に増額の陳情を行った(本紙前号で既報)。その要望額と今回の概算要求額とは、

中学校 三万八千九百円
小学校 一万三千六百円
(一万二千八百円)

2 要保護家庭の児童生徒対象
・校外学習費
・宿泊を伴う場合 三万三千七百円(二万八千八百円)
・宿泊を伴わない場合 一十八百円(一千三百円)
・小学校・宿泊を伴う場合 二千五百円(一千八百六十円)

同・宿泊を伴わない場合 七百七十円(七百四十円)など、総額では修学旅行費は二億八千九百九十七万四千円となり、校外活動費は四億六千六百万八千円となる。

今年から文部省も後援 充実の 全修協 修学旅行セミナー

全修協 修学旅行セミナー

九月九・十日開催、今年度から文部省後援による「第三回全修協修学旅行セミナー」の「基調提案」および「問題提起」はつぎのとおりである。

基調提案大綱

●研究テーマ
修学旅行の基本問題と今日の課題の究明
I、はじめに
基調の柱を(1)国の文教政策の動向(2)学校現場での生徒指導上の問題点の推移(3)修学旅行をめぐる最近の動きの三本にしよう。

II、国の文教政策の動向
(1)昭和五十六年四月一日
教育課程審議会答申「教育課程基準改善のねらい」
①豊かな心をもち、たくましく生きる人間の育成を図ることの自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すること
②国民として必要とされる基礎的・基本的内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図ること
③国際理解を深め、わが国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること
(5)昭和六十二年七月一日
文部省社会教育局を改組し、生涯学習局を新設する。
(6)昭和六十三年七月二十六日
文部省学習指導要領改善の要領発表
III、学校現場での生徒指導上の問題点の推移
(1)五十年代半ばから全国各地で校内暴力事件多発する。
●昭和五十八年一月十五日
東京都町田市立志生中学校

生徒数は年々減少の一途

文部省は八月十九日、昭和六十三年度学校基本調査の速報を発表した。これは毎年五月一日現在の全国の学校を対象とする調査で、この結果は我が国の統計資料の中で最も信頼性の高いものである。

修学旅行と関係深い「在学者数」は別表のとおりで、今年の中・高三年生をピークに、年々減少の一途をたどることが明白となっている。

昭和63年度在学者数 (単位:万人)

校種	学年	計						
		1	2	3	4	5	6	
小学校	計	987	151	155	162	168	173	178
	専科1							
中学校	計	590	186	198	205	—	—	—
	専科1					3		
高等学校	計	553	194	184	172	—	—	—
	専科1							

関東地区公立中学校修学旅行委員会(成石昌誠会長・川越市立川越第一中学校校長)は、今年度第三回の研究協議会を九月六日東京上野で開催し、昭和六十五年修学旅行の輸送計画作成のための基本方針、第五回全国修学旅行研究大会成功にむけての諸準備等について協議を行った。写真、会議にはJR東日本から東京圏運行本部の高橋進係長、野口幸隆主席も出席し、委員会の重要作業である関東五県の減となる。

ついで、茨城県修学旅行委員会を中心として準備が進められている第五回全国修学旅行研究大会(別掲)の件が上掲され、大会の成功を期して各県とも総力をあげて協力することを確認した。

65年度申込は19万4千名に 関東地区公立中修旅委

茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、八千九百名の関東、東北への「新幹線専用列車割付」の基本方針を決めた。

全国のトップを切って、この日集計した六十五年度の申込数は、関西方面七百七十八校・十八万四千名、東北方面三十八校・一万名、合計八万六千六百四十四名で、六十四年度に比べ学校数は横ばいながら、人員は一万四千名の減となっている。関西の減は、六十五年に大阪で「花と緑の万博」が開催されるからであろうか。東北は四千名の減となる。

茨城県修学旅行委員会(成石昌誠会長)は、九月六日東京上野で開催し、昭和六十五年修学旅行の輸送計画作成のための基本方針、第五回全国修学旅行研究大会成功にむけての諸準備等について協議を行った。写真、会議にはJR東日本から東京圏運行本部の高橋進係長、野口幸隆主席も出席し、委員会の重要作業である関東五県の減となる。

第五回全国修学旅行研究大会 11月25日 水戸で開催

地区公立中学校修学旅行委員会
一、主催 財団法人全国修学旅行研究協会、関東学旅行研究協会、関東立県民文化センター
二、後援 文部省、都道府県教育委員会、茨城県教育委員会、栃木県教育委員会、群馬県教育委員会、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、水戸市教育委員会
三、協賛 茨城県校長会、茨城県公立中学校修学旅行連合委員会
四、日時 昭和六十三年十一月二十五日(金)受付開始十三時、閉会十七時
五、会場 水戸市 茨城県立県民文化センター
六、研究テーマ みんなが創る修学旅行
七、研究会次第
(1)研究発表(実践報告) 生徒自身の生徒の手による修学旅行 土浦市立土浦第六中学校教諭 宮本千代子氏
(2)研究協議 茨城県教育委員会
(3)指導講話 須藤和彦氏
(4)講演 「学習指導要領改訂の方角について」 文部省初等中等教育局教科調査官 高橋哲夫氏
八、参加申込先 財団法人全国修学旅行研究協会、〒100 東京都千代田区西神田二一八-7 03・262・2932
参加費無料 参加を希望される方は前もってご連絡下さい。お互いを高めあおう!

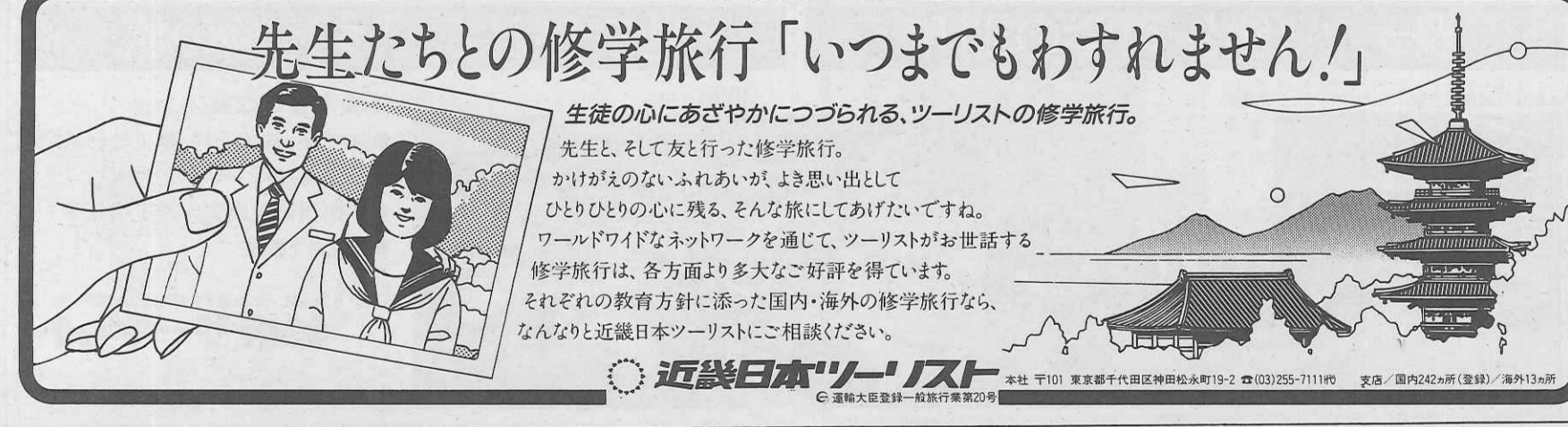
風紋

昭和十二年五月三十日出発、車中・東京各二泊、日光・京都各泊、六月五日学校帰着……「思い出の旅」という高野山中学校の古い思い出がある。はじめに、この一週間を有意義に、中学校生活の純な思い出にしたいと願う。そして旅の字の本義は旅団の意味で、旗の下に沢山の人が集まってくる形が原点(勝手に歩く旅ではないよ)と述べる。行程図がよい。頁ごとに地図や概念図が描かれる。鎌倉では「七里ヶ浜の磯づたい……」と文部省唱歌を案内図に挿入、丹那トンネルでは、長さ、工期等の要点、賦水湖となった浜名湖、三塔、十六谷の延暦寺、江戸の名の由来等沿線指導が詳しい。当時東京一週間の特急は時速四十八キロ、ドイツと比較し、公共鉄道の最初は千八百一十五年イギリス……と話題も豊富。一九の藤葉毛が出て来る。芭蕉の句がある。陽明門の説明など所々に英語が入る。そして「旅行にはすべて目的地に対する知識の準備が必要」と添える。団体旅行は忘れぬよう、健康が第一、中高健児は自重して、と注意も簡にして要を得る。車中の欄では、窓から首を出して自傷した東京の中学生のことなどをのせている。最後の人員点呼して整理。校歌合唱、万歳三唱「でこのしおりは終る。どこの本からノリとハサミで編集した「しおりの多い中で、これは個性豊かで、手づくりの温かさがある。余談になるが、今夏、和歌山大会で高野山高校は初優勝、校歌が流れ、応援団が万歳を三唱、甲子園に登場した。

信頼される旅づくり

先生たちとの修学旅行「いつまでもわすれません!」

生徒の心にあざやかにつづられる、ツーリストの修学旅行。
先生と、そして友と行った修学旅行。
かけがえないふれあいが、よき思い出としてひとりひとりの心に残る。そんな旅にしてあげたいですね。
ワールドワイドなネットワークを通じて、ツーリストがお世話する。
修学旅行は、各方面より多大なご好評を得ています。
それぞれの教育方針に添った国内・海外の修学旅行なら、
なんと近畿日本ツーリストにご相談ください。



近畿日本ツーリスト 本社 千101 東京都千代田区神田松永町19-2 ☎(03)255-7111代 支店/国内242ヵ所(登録)/海外13ヵ所
G 運輸大臣登録一般旅行業第20号

生徒指導と特別活動・修学旅行

昨年十一月の教育課程審議会の答申に基づいて、現在文部省においては学習指導要領の改訂作業を進めている。本年の十二月に新学習指導要領の告示が行われ、移行措置の期間を経て、昭和六十八年度から全面実施となる予定である。

学習指導要領の改善の方向や趣旨の説明を行い、またそれに対する教育委員会・学校の意見や質疑を求めて研究協議を行う目的で、文部省では去る七月下旬から八月下旬にかけて、全国を五地区に分けて、「昭和六十三年中学校教育課程講習会」を実施した。

中学校学習指導要領「特別活動」の改訂の方向

改善の方向が明らかになった。資料)昭和六十三年七月二十六日文部省発表の中学校教育課程講習会資料「学習指導要領改善の要領」から抜粋。

中学校学習指導要領「特別活動」の改訂の方向

1 目標改善の視点
最近の中学校生徒の実態及び中学校教育の課題や各甲の趣旨に基づき、現行の目標内容を例へば次のような内容に取り入れられるようにする。

秋の4コース

全修協の教職員研修旅行
夏のお全修協教職員研修旅行は、盛況のうちに全団帰着、無事終了した。

秋はつぎのツアーを実施する。詳細は全修協へ。
千川東京都千代田区西神田一八七番03・262・29032
○江戸の面影残す蔵の街川越
9月13日(火)日帰り

55

55

55

55

55

55

55

55

55

55

55

55

55

55

55

55

55

55

55

55

55

2 内容改善の視点
○時代祭と奈良非公開文化財
10月22日(土)〜24日(月)
○越前大野・永平寺郡上八幡
10月27日(木)〜28日(金)
○正倉院展と大和の秘宝
11月3日(祝)〜4日(金)

○現在及び将来において自己を生かす能力を育てること
○学級活動の各内容事項の指導については、各内容の特質に応じて、例へば次のような

文部省教科調査官 高橋哲夫
千名と、全体の57.6%を占め、地域特色を示している。
出発地別では、大阪府二万六千名、兵庫県十六万二千名、愛知県十三万八千名、東京都十萬三千名、福岡県七万八千名の順となり、中学校は近畿および関東、高等学校は近畿、東海、九州をはじめ全国から集まっている。

全修協 修学旅行セミナー
問題提起
修学旅行の教育的意義
(1)教育課程の位置づけ
(2)修学旅行の現状と対策
(3)修学旅行の今日的課題

1 安全性の確保
(1)安全条件(輸送、見学地、旅館、食事など)
(2)教育性の高揚
(3)経済面の適正
(4)保護者の負担軽減
(5)小遣いの使い方を通して、適切な消費生活へ

2 修学旅行の主体的確立
(1)安全性の確保
(2)教育性の高揚
(3)経済面の適正
(4)保護者の負担軽減
(5)小遣いの使い方を通して、適切な消費生活へ

3 修学旅行の今日的課題
(1)国際性の涵養と国土学習の尊重
(2)国際性の涵養のために、我が国の文化と伝統の理解が重要
(3)国土学習のとりえが課題
(4)点と線が多く、面のとらえ方が不足
(5)文化道産外の分野の欠落
(6)国際性の涵養と海外修学旅行
(7)時代の要請——二十一世紀に生きる
(8)安全性の確保が先決
(9)航空機に頼らざるを得ない
(10)国情、風俗、習慣の違い

4 まとめ
(1)修学旅行は、学校教育の総仕上げとして、また学校生活のよい思い出として、子供の人間形成の上で、捨て難い我が国独特の伝統的行事で、今後も育てていかねばならないものである。
(2)修学旅行の基本的問題は、教育性の高揚、安全性の確保、経済面の適正である。
(3)修学旅行の今日的課題では、内容的には国土学習、方法的には学校・生徒の主体性の確立が重要である。

長野県の実態調査から
昭和六十二年に修学旅行で長野県を訪れた中学校、高等学校の総数は千八百七十一名と、全体の57.6%を占め、地域特色を示している。

旅行の実施時期は、中学校は五月七月の林間、登山、スキー、高等学校は十一月のスキーシーズンに集中している。

高校生が冬の志賀高原に平均三泊、延三十八万九千名と断然群を抜いているのが、信州の実態を特色づけている。

箱根高原ホテル
とびだせ自然へ
緑の箱根へ

さわやかな奥日光の高原で素晴らしい修学旅行の一夜をお過ごし下さい。

そのほか
冬期はスキー教室
夏期は林間学校

箱根高原ホテル
〒250-05 神奈川県箱根町元箱根164
電話0460-4-8595(代表)

豊かな自然と、科学の調和
本田技研鈴鹿製作所工場見学
地曳網
エンジン教室
潮干狩

体験学習のご案内
●地曳網 ●潮干狩 ●伊勢形紙彫り
●茶摘み ●テーブルマナー
●本田技研鈴鹿製作所工場見学
●エンジン教室

お問い合わせ・お申し込みは
鈴鹿サーキット
〒510-02 三重県鈴鹿市福生町7992 ☎(0593)78-1111